

いち・にの・さんしん



原三信病院 広報誌

January 2012 No. 38

病人のための病院

病院理念

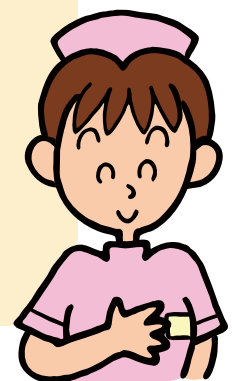


病院基本方針
一、質の高い医療の追求
一、居心地の良い環境の提供
一、心ももったサービスの実践

作品:「雪山トレッキング」(スイス) 写真部 細川勝子

目次

- 病院にゆ〜す「不整脈治療とカテーテルアブレーション」 2
- 医学雑学講座「さんしんの電子カルテはもうすぐ10歳」 3
- THEプロフェッショナル「臨床工学技士とは」…………… 4
- 検査紹介コーナー「超音波診断装置のご紹介」…………… 5
- 香椎原病院だより・食のヒミツ…………… 6
- 呉服町腎クリニックからのお知らせ…………… 7
- 病院及び関連施設のご案内…………… 8





病院にゆ〜す

最近の
原三信病院の
動き

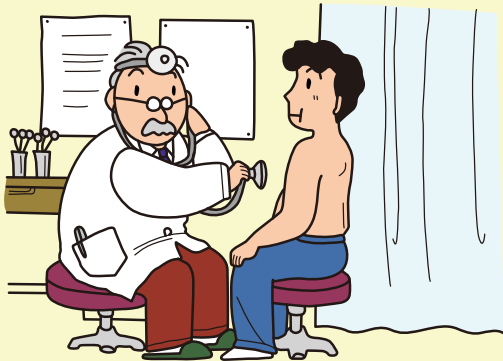
不整脈治療とカテーテルアブレーション

不整脈とは

心臓には微弱な電気が流れており、これによって心臓の筋肉が足並みをそろえるように同時に収縮したり拡張したりを繰り返しています。この電気の流れに異常が起きると変なタイミングで心臓が動いたり、極端に脈が速くなったりすることがあり、これが不整脈と呼ばれるものです。

不整脈の症状は

安静にしていても心臓がどくどくするよう感じたり、胸が痛むような感じがしたり、動いた時などに動悸や息切れなどを感じる場合があります。



不整脈の診断は

まずは心電図検査を行ないます。また、24時間心電図検査では1日のうちでどの程度不整脈が起きているのか確認ができます。

不整脈の治療は

飲み薬で良くなる不整脈もあります。また、飲み薬でもなかなか発作がコントロールできない時は、心臓の電気生理学的検査に引き続いてカテーテルアブレーション治療を行なうことで、根治することができる場合があります。

電気生理学的検査って何？

首や足の付け根の大きな血管(静脈)から管を入れて心臓まで電極を持って行き、心臓のいろい

ろな部分の電気活動を調べます。これにより不整脈の原因がどこにあるのかや治療が可能かどうかなどを詳しく調べることができます。

カテーテルアブレーションとは？

心臓の電気生理学的検査に引き続いて、特殊な電極を不整脈の原因となっている部分に持って行き、その先端に高周波を流して50-60℃に熱することでその組織を一部焼いて治療します。こうすることで不整脈を根治することができます。成功率は不整脈の種類にもよりますが、およそ80-90%程度です。

治療の合併症は

大きい血管に管を入れますので、術後に出血や管を入れたところが腫れたりすることがあります。また心臓の周りには出血を起こすと、術後に心臓の周りの袋に管を入れて血液を抜く処置が必要な場合もあります。これらは1%未満の確率ですので、比較的安全な治療と思ってください。

平成23年10月より当院でもカテーテルアブレーション治療が行なえるようになりました。治療は3泊4日の入院で、手術2日後には退院できます。術後に心臓の中に血液の塊ができるのを防ぐ薬を2週間ほど内服していただく場合があります。

動悸がする、胸が痛む、息切れがするなどの症状がある方は、まず当院の循環器科にご相談ください。不整脈かどうか、治療が必要なのかなどしっかりと診断させていただきます。



循環器科 医師 増田 征剛



医学雑学講座

さんしんの電子カルテはもうすぐ10歳

電子カルテというのは、パソコンで書いてモニターに映し出す方式のカルテをいいます。

以前はインクで紙に書いて、患者様ごとに一冊ずつ本のように管理していました。

当院が「情報の共有化」と「業務の効率化」を掲げて電子カルテを導入して、今年で10年になります。厚生労働省が2001年に「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」で電子カルテ推進を提唱した翌年でしたので、全国的に見てもかなり早い導入でした。

電子カルテは、紙カルテと比べて様々な利点があります。

すぐ読める

電子カルテでは、検査結果が出てすぐに参照できるのはもちろん、レントゲンやCTも撮影後すぐに医師がモニターで確認できます。逆に、何年も前に患者様がクリニックから持ってこられた紙の紹介状も、ボタンひとつでモニター上に呼び出すことができます。あらゆる情報を、場所や時間に関係なく迅速に取り出せるのは、電子カルテ最大の特徴です。

どこでも読める

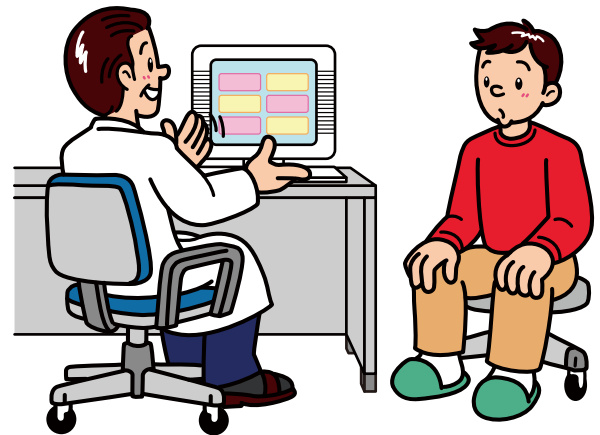
電子カルテは、本のように、いま貸出中だから他の人は読めないというようなことはありません。院内のどこからでも複数の人が同時にアクセスできるので、職員は常に最新の情報を見ながら、多職種が連携して患者様の治療に当たっています。

省スペース

紙のカルテは保管するのに巨大な倉庫が必要でした。電子カルテは六畳間ほどのスペースがあれば済み、空いた場所を別の診療機能に割り振ることができます。

コピーできる

先の東日本の震災では、医療機関も甚大な被害を受けました。津波や火災でカルテを喪失したために、それまでの診療の履歴はもちろん、昨日処方した薬の内容すらわからないというようなことが起こりました。当院のカルテは、病院から離れた安全な場所に毎日コピーを作って「もしも」に備えています。



もちろんいいことづくめではなく、電子カルテにも欠点があります。機器の故障や停電といったトラブルに弱いところなどがそうですが、これもこの数年の機器の進歩や事前の準備でかなり対策がとれるようになってきました。

電子カルテはこれからも改良を重ね、職員にとって使いやすく、そしてそのことが患者様の治療をよりよいものにできるように、日々進化させていきたいと思います。



企画情報室 主任 平原 俊吾



THE プロフェッショナル

臨床工学技士とは

臨床工学技士(CE)とは

医療の発展と共に高度な医療機器が検査や治療に使用されるようになり、機器の操作や保守点検の方法も専門知識が必要になってきました。以前は、医療機器が不具合を起こせば業者やメーカーが対応していましたが、現在は、医療機器の原理・操作・メンテナンス法を専門的に学習し国家試験を取得した臨床工学技士が、臨床の場においてその任を担っています。主には、①機器の原理・操作方法・トラブルシューティングの教育や研修、②使用前・作動中・使用後点検、③定期点検・オーバーホール、④機器の修理等を行っており、他職種と共にチーム医療に貢献し医療機器(生命維持装置)の操作・保守点検を行って、患者様に安全・安心できる医療機器を提供できるよう努めています。

臨床工学科業務内容

手術室

手術室では2名の臨床工学技士が業務に当たり、1日平均約20件の手術のなかで、外科・整形外科・泌尿器科鏡視下手術の内視鏡タワーや医療機器のセッティングを行ったり、医療機器の故障・トラブル等の対応、メンテナンスを行なっています。また、心カテ室ではPCPS※1・IABP※2 使用時のセッティングおよびプライミング※3も行なっています。この他に特殊な業務として、泌尿器科の経尿道的・経皮的内視鏡手術の直接介助も行なっています。



呉服町腎クリニック

呉服町腎クリニックでは3名の臨床工学技士が勤務しており、腎クリニック(外来)・腎センター(入院)の水処理(逆浸透)装置2台、多人数用透析液供給装置2台、透析監視装置62台を保有し、毎日150名の外来患者様、



20名程の入院患者様の透析療法を行なっています。臨床工学技士は安全な透析医療を提供するために水・透析液管理をはじめ、保守点検・修理・定期消耗品部品交換等を主な業務としています。臨床的には個々の患者様の透析効率を算出評価し、医師・看護師への報告検討や透析中のトラブル対応など、専門知識を基にフレキシブルサポートチームとして活躍しています。

ME機器医材管理室

ME機器・医材管理室では2名の臨床工学技士が院内の医療機器40機種約400台を管理し、貸し出し業務・保守点検・修理等を行なっています。病棟では使用中の人工呼吸器・体外循環装置等に対して定期的にラウンドを行ない、正常に作動しているかチェックを行なっています。また、ペースメーカーに対して外来・病棟にてプログラマー機器によるチェックをはじめ植込時には、アナライザー※4操作を行なっています。また、RST(呼吸器サポートチーム)回診を医師・看護師・PT※5・CE※6で月2回行なっており、人工呼吸器を装着されている患者様に対して回診をしています。常に患者様に対して、安心・安全な医療機器を提供出来るよう日々業務に当たっています。



- ※1 PCPS: 経皮的心肺補助
- ※2 IABP: 大動脈バルーンポンピング
- ※3 プライミング: 充填する
- ※4 アナライザー: 測定器(ペースメーカー用)
- ※5 PT: 理学療法士
- ※6 CE: クリニカルエンジニア(臨床工学技士)

臨床工学科 科長 吉村 秀





検査紹介コーナー

超音波診断装置のご紹介

現在、超音波検査科で管理・保有している超音波診断装置は20台あり、上腹部・下腹部・腸管・前立腺・残尿・乳腺・甲状腺・リンパ浮腫などの検査や穿刺(せんし)・生検業務を行なっています。

本館超音波室には3台の装置があり、平成23年9月にそのなかの1台を新規交換、導入いたしましたので、ご紹介させていただきます。

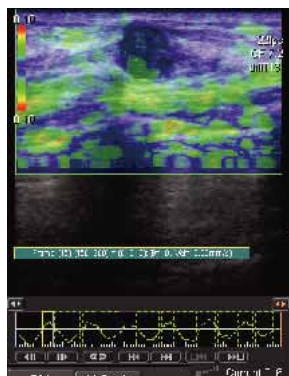
超音波診断装置のご紹介

導入装置は、東芝社製超音波診断装置AplioMXです。プローブは腹部用コンベックスプローブ、12MHz高周波リニアプローブ、8MHz高周波プローブの3本が装備されており、上下腹部・腸管・体表などに使い分けて検査を行なっています。また、以前の装置にはなかった、乳がんの早期発見および診断の一助となるエラストグラフィやマイクロピュアが行なえるようになりました。

●エラストグラフィはプローブの圧迫動作により、病変部位の硬さの変化を映像化し、形態や機能とは異なる診断情報が得られます。悪性病変は硬さを反映しておおむね青く描出されるのに対して、良性病変は軟らかく緑色として描出されます。



■プローブ



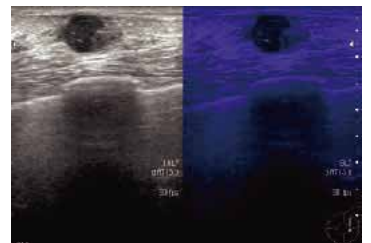
■エラストグラフィ

●また、プローブの動きをグラフ化することで圧迫の仕方が適正かどうかを確認でき、解析機能とあわせて、より再現性の高い検査が可能となりました。

●エラストグラフィは、現在いろいろな部位に使用されていますが、まだ判定基準が確立されていない部位もあります。

●しかしこの先、判定基準が確立されればさらに有用な検査法になると思われます。

●マイクロピュアは正常組織を青、石灰化を白で表示し、石灰化以外の高エコー病変の描出を抑えて石灰化を見やすくする技術であり、乳がんの微細石灰化の検出に有用です。



■マイクロピュア

●その他の特徴としては、

●Precision Imagingという最新の技術により組織構造を強調し、境界や構造物の視認性を高め、腫瘍の辺縁や消化管の層構造をよりクリアに描出できます。

●高性能のハーモニック法により深部までの高い分解能の画像が得られます。

●以上のように、新しい超音波診断装置の導入により高画質の画像や検査結果が得られるようになりました。

●超音波検査は、手軽に行なえる画像診断法のひとつです。当科では正確で迅速な検査結果を提出できるよう、これからも日々の努力を重ねていきたいと思っています。

●※検査に際してご不明な点がございましたら、お気軽に医療スタッフにお尋ねください。



超音波検査科 科長 田辺 二恵



香椎原病院の取り組みについて

高 齢化が進む昨今、「住み慣れた土地で自分らしく自立した生き方をしたい」と誰もが願っていることでしょう。私たちは、お互いに助けあい、喜びを実感しあうことで、心豊かな充実した生活を送れるものではないかと思っています。そこで香椎原病院では、地域に根ざした病院として、様々な取り組みを行なっているのでご紹介します。

急性期病院治療後の療養・リハビリによる体力回復と今後の生活設計へのお手伝い。生き甲斐ある在宅生活を送るための在宅ケアサービス。健康増進のためのシルバーシニアフィットネス。院内外における健康づくり教室の開催。ボランティア

の皆様や中高生の職場体験の受け入れなど。皆様に支えられながら、スタッフが意欲的に新しい取り組みに挑戦しています。このように暖かい心が触れあうことで、豊かな生活医療が展開されつつあります。

香椎原病院を今年もどうぞ
よろしく願いいたします。



香椎原病院 院長 寺田 憲司

食のヒミツ

かぜの時の食事について

か ぜは、いろいろな原因で起こる呼吸器の急性炎症の病気を総称したもので、正確には「かぜ症候群」と呼ばれます。季節の変わり目や冬の寒さが本格的になると、くしゃみや喉の痛み、発熱など、かぜの諸症状に悩む方も多いのではないでしょうか？

かぜをひいた時には、消化が良く、水分が多く、温かい食品を食べるようにしましょう。

① 温かく水分が多い食品

発汗を促し、熱や汗で失われた水分を補給し、痰を切る効果があります。

例) 番茶、温かいレモンティー、葛湯、お粥、スープ、茶碗蒸しなど。

② ビタミン補給

熱が高く体がほてっている時は、冷たい食べ物が効果的です。

例) 果物、果汁、シャーベットなど。

③ 無理せず食べられるものを

下痢や嘔吐などの症状がある場合は、食べたい時に食べたい物を口にしましょう。

予防と治療の基本は「休養、睡眠、保温、食事」です。日頃から無理をせず、生活のリズムが乱れないように気をつけましょう。



栄養科 科長 石崎 律子



呉服町腎クリニックからのお知らせ

安全・災害管理班 防災特集

血 液透析治療はほとんど働かなくなった両側の腎臓機能を、人工腎臓(透析機)によって肩代わりして長期の生命維持を図る人工臓器治療です。毎日の新陳代謝で生じる老廃物、余分な水分、塩分、電解質を排尿によって体外に排出する代わりに、直接血液からそれらを吸い取り、適切な状態に戻します。治療のために血液を体外で循環させる必要があるため、出血・血腫形成の予防、ウイルス感染の予防、空気混入の予防、血圧低下予防などに細心の注意が必要となります。

当院では安全面の取り組みとして、治療スタッフの針刺し事故防止のための方法改善、針箱の工夫、血液循環状態の監視方法の改良、患者様の状態把握などを行っております。患者様にも安全面から御配慮をお願いすることがあると思いますが、ご協力をお願いいたします。

● 昨今、災害に備えた医療環境の準備がさらに注目されております。血液透析は機械を使用して行なう治療であり、①災害時に安全に治療を中止して離脱できること、②安全に院外に避難できることが最重要と考えられています。

● 2011年11月6日(日)に原三信病院呉服町腎クリニックにて防災・避難訓練を行ないました。原三信病院・呉服町腎クリニックのスタッフ、患者様のご参加のもと、博多消防署の署員3名の皆さまよりご指導をいただきました。患者様からも様々なご意見を頂戴いたしました。患者様、博多消防署員の皆さま、誠にありがとうございました。



編集後記

いよいよ本格的な寒さになってまいりました。

今回の広報誌では、医学雑学講座やTHEプロフェッショナルのコーナーで、臨床工学技師や電子カルテを管理する部門など、皆様とはあまり接する機会のない部門のご紹介をしております。病院は様々な専門職の集合体です。馴染みのある医師や看護師をはじめ、多くの分野の職員が皆様の健康や安心・安全のために日々邁進しております。今年もこの広報誌を通して、様々な視点からの情報をご提供させていただく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

広報・連携委員会 委員長 原 直彦

病院及び関連施設のご案内



原三信病院

〒812-0033 福岡市博多区大博町1-8
 ☎092-291-3434 FAX092-291-3424
 URL <http://www.harasanshin.or.jp>
 ☒ info@harasanshin.or.jp



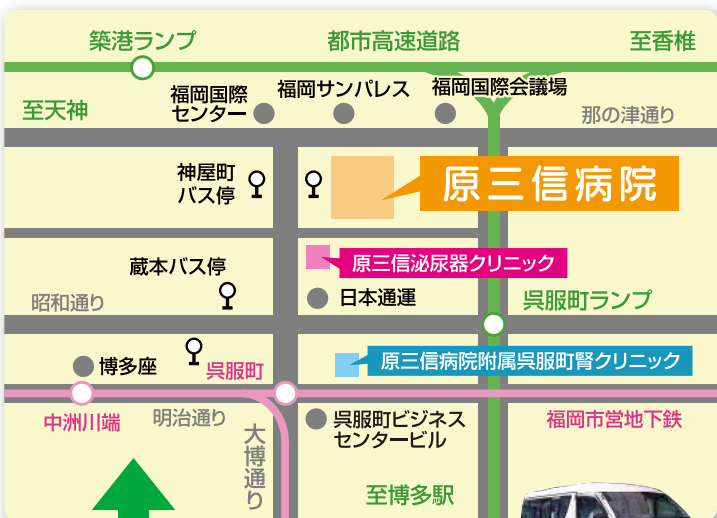
● 診療時間

月～金曜日 9:00～13:00・14:00～17:00 土曜日 9:00～13:00

※日・祝祭日および8月15日・12月31日～1月3日はお休みです。但し、急患の患者様は、救急外来にて診察いたします。

● 診療科目

総合診療科・循環器科・消化器科・呼吸器科・糖尿病科・外科・血液内科・腎臓内科・脳神経内科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科・放射線科・麻酔科・臨床病理科・歯科・睡眠呼吸障害センター・健康管理センター



原三信病院附属 呉服町腎クリニック



〒813-0011 福岡市博多区中呉服町1-25
 ☎092-262-2828
 FAX092-262-2853
 ☒ gofukumachi@harasanshin.or.jp

- 診療時間 水曜日 14:00～17:00
- 診療科目 内科・人工透析

原三信泌尿器クリニック



〒812-0034 福岡市博多区下呉服町2-13
 双和ビル2F(双和薬局上)
 ☎092-283-5121
 FAX092-283-5131

- 診療時間 月～金曜日 9:00～13:00 14:00～17:00
- 診療科目 泌尿器科

シャトルバス運行しています

	香椎原病院発	千早駅発	原三信病院着	原三信病院発	千早駅発	香椎原病院着
午前	9:30	—	10:00	10:10	10:35	10:40
	11:40	11:50	12:10	12:20	12:45	12:50
午後	13:40	13:50	14:10	14:20	14:45	15:00
	15:50	16:00	16:20	16:30	—	17:00

運休日: 日曜・祝日・年末年始 ※時刻・路線は変更することがございます。詳しくは受付にてお尋ね下さい。



香椎原病院



〒813-0011 福岡市東区香椎3-3-1
 ☎092-662-1333 FAX 092-662-1330
 URL <http://www.kashihara.or.jp/>

- 診療時間 月～金曜日 9:00～13:00 14:00～17:00
- 診療科目 内科・リハビリテーション科

病院理念 **手の暖かさの伝わる病院**